
SPECTRUM **スペクトラム**

紫電改

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SPECTRUM スペクトラム

【Nコード】

N2187B

【作者名】

紫電改

【あらすじ】

1969年8月10日。ある四人の兵士達が軍からの脱走に成功する。同時に彼らは秘密結社を立ち上げ、極秘裏に「依頼人」から仕事を請け負い、多額の報酬を受け取って日々の糧とする生活を始めた。軍からの刺客、大博打、寒いジョークを切り抜けて、彼らの旅は続く。

No.0：プロローグ

深い、暗い森から抜け、しばらくすると、それは見えた。

四人も乗ったJEEPは、ひどく重そうにバリバリ言いながらも走る。

そして、談笑が聞こえる。

「明るすぎる．．．．．」

「俺の存在が？」

「いいや．．．．．太陽だ」

とりとめのない冗談が、延々と続く。

そして、彼らは進む。

栄光と殺戮に向かって。

No.1：空のない街（前編）

砂漠の真ん中を、JEEPが一直線に走っていく。その跡は砂煙にまみれて、まるで飛行機雲のようだった。

JEEPは度々軋んで、今にも自壊しそうな雰囲気さえ振り撒いていた。しかし中の人間達も、もはや自壊寸前まで来ていたのだった。

「水分が足りてない」

「雨乞いだ、雨乞い」

「体力の無駄だ、アホ」

「それにしても……。」

運転手だけが活きている。

「もうすぐ、大都会だよ」

と、呟いた途端、一同は跳ね起きて

「本当か！」

と復活の声をあげ、そしてまた寝る……。

やがて、砂漠は市街地とクロスするように消えていった。

その都市に入ってすぐに一同を叩き起こして水分を補給させた後、JEEPはまた走り始めた。相当に上機嫌な四人は、口々に

「もつと飛ばせえや」

「そうだそうだ！」

と絶叫するのだった。

だが、彼らはすぐに知ることとなる。この街の本当の恐ろしさを
．．．。

それは唐突に訪れた。仲間の異変に、声をかける。

「どうした、ループル」

ルーク・マーブレット、略してループル。歳は17程。普通の男だが即答能力と地理的感覚では他を圧倒する。酒類を飲むと弱点である脇腹が猛烈に痛む（本人談）。

「．．．．．」

上を見上げるなりループルは絶句した。

「ちなみに、カイル」

本名カイル・ローレンス、カイルと呼ばれる男のことである。瞬発力だけが異常なまでに発達した狂人（？）で、冷静な判断を彼に求めるのは間違っている．．．。

「ん？」

一同は相当慣れており、呆れもしなかった。

そして、こう言った。

「空が、ないのさ」

No.2：空のない街（中編）

この街には、空が存在しない。そのあるべき部分には、不気味に黒い煙が立ちのぼるだけである。

カイルが言った。

「なあ、こんなとこで何やろうってんだ？」

一同が黙りこんだまま、車は走る。

やがて、運転手が呼び掛ける。

「さあ、着いたよ」

決して上機嫌ではなくなった3人に、静かに、冷静に言った。おそらく、これから何があるのか大方知っていたのだらう。

「じゃあ、説明を始める。今日の依頼は殺しだ。．．．正直言ってやりたくはないが仕方が無い。しかも依頼主は民間人だ。そして目的はこの街の市長である、ターゲット

フレッドソン・ローレンスという人物だ。」

瞬間、カイルが目を逸らしてびくつとしたのが誰の目にも分かった。

「．．．．．！」

そして運転手は淡々と説明を続けた。

「フレッドソン氏は現在、その角を左に曲がり30m程のところに停車しており、近くにはスナイピングポイントもかなりあるようだ。いずれにせよ早く行かねば見失ってしまう。急ごう」

「ちょっと待ってくれ」

「何だ？」

「いや、やっぱりいい……行こう。」

彼らは目的地へと向かった。

「そこだ……よく狙え。」

「カイルは？」

「ターゲットと話している。まさか、知り合いなのか？」

「……おそらく親戚だな」

「それを殺せと？ 正気か？」

「仕方があるまい、仕事だ」

やがてカイルが離れ、間もなく銃声が響いた。とはいえ、サプレッサーを装着しているのだから、ほとんど無音に近い。

「終わったか」

「ああ。」

一同はJEEPに飛び乗り、その場を去ろうとした。「運転手は無用だったな」「今回はうまくいったよ、サンキュー。」

その時。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2187b/>

SPECTRUM スペクトラム

2010年12月4日05時45分発行